



こだま

第2号

発行日 平成28年3月5日
発行 大谷小学校PTA
編集 PTA広報委員会
題字 校長 松村 隆年
表紙 6年生修学旅行

修学旅行



ANA羽田機体整備工場

東京駅 静岡駅 《1日目》



上野公園&
国立科学博物館



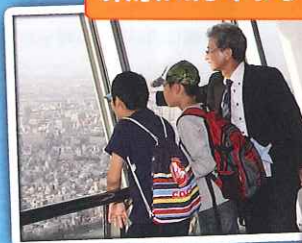
皇居外苑



東京タワー



東京スカイツリー



静岡駅 東京駅

浅草

(浅草寺・仲見世周辺)



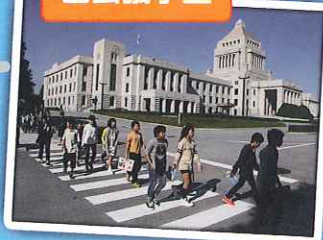
浅草演芸鑑賞



東京ドームシティ
アトラクションズ



国会議事堂 《2日目》



ホテルメトロポリタン
エドモント



10年後の ぼく・わたし



管理栄養士になって、おいしく栄養バランス OK な献立を作っていると思います。

石原 知歩

警察官になり、人を笑顔にさせたいです。平和になるようにがんばりたいです。

上倉 華倫

私は、人を元気にしたり、明るくしたりできるような漫画家になりたいです。

杉山 穂乃美

優秀な車のデザイナーを目指して、絵の勉強を頑張っています。

長嶋 晟

服のデザイナーになって皆がハッピーになるようなデザインを考えたいです。

三浦 未聖

災害などで困っている人を助けたいです。そのために、勉強をしていると思います。

入川 快士

僕はゲームクリエイターになるために、機械についての勉強をしています。

河村 明真

みんなを笑顔にするスイーツを作るパティシエ目指し修行をしています。

鈴木 珠海

やさしい人間になって、世界のまっすぐな子どもを助ける仕事につきたいです。

西垣 秀彦

大きなお寺や神社を修理できるような宮大工になれるよう修行をがんばっています。

宮下 悠一

ぼくは、ディズニーの着ぐるみ担当従業員になってお客さんを楽しませたいです。

植村 遥人

サッカー選手になり、ワールドで、エスパルスで J1 で優勝させたいです。

城内 佑輔

まっすぐで素直な大人になり、幸せな家庭を築き、ディズニーに勤めたいです。

園田 愛理

みんなに好かれるような保育士になるために実際の保育園で勉強しています。

新田 琉月

心臓内科の看護師になって医者サポートができる人になりたいです。

望月 舞

小児科の看護師になってたくさんの子どもの助ける仕事をしたいです。

大内 麻由

ドッグサロンのトリマーになり犬をきれいにしてお客さんを笑顔にしたいです。

坂本 愛佳

どんな病気でも治せるような外科医になって手術し、信頼されたいです。

土岐 真輝

日本一のゲームクリエイターになれるように東大で勉強したいです。

平松 隼

JRIに入社しています。新幹線の運転手になり、時刻をきっちり守りたいです。

山田 弦季

サッカー選手になっていて、エスパルスの若手 DF として活やくしたいです。

大原 飛来

自分が明るく元気に接して子どもたちを笑顔にできる保育士になりたいです。

佐藤 帆乃果

大学を卒業して、スポーツ選手のけがを治す整形外科医になりたいです。

長倉 由喜

競輪のプロ選手を目指し競輪学校に入ってスピードと技を極めていきたいです。

福地 慧士

人々を助ける救助隊員になって、みんなが笑顔でいられるようにしたいです。

吉村 優花

大谷小学校での6年間の学びを終え、今まさに“新たなステージ”へと旅立とうとしている6年生たち…彼らには、果たしてどんな未来が待っているのでしょうか？卒業を間近に控えた彼らに、10年後の、今よりも「ほんの少しオトナになった自分」は何をしているのか、考えてもらいました。



教師になるために大学でがんばって勉強をしています。

井上 裕斗

私は保育士になり、たくさん子どもとふれ合い、楽しい時間を過ごしています。

岩田 結梨

僕は海外のサッカーチームの11番になり、活躍しています。

片山 宙拓

私は保育士の試験に合格するために大学で楽しく学んでいると思います。

福井 歌純

私は、アナウンサーになるために、正しい日本語が使えるよう訓練しています。

山崎 桜子

僕はおいしい料理を作る料理人になり人気シェフになります。

今村 晃雲

私は剣道を続けながらテニサーの資格をとるために勉強をしています。

海老澤 美月

私はトリマーになるために動物のくわしい知識を身につけています。

倉野 早紀

僕は、ゲームクリエイターになって、アクションゲームを作っています。

福村 那生

私は、ディズニーに勤めるために、絵の専門学校で技術を学んでいます。

山田 かりん

私は先生になるために大学で苦手な理・社をがんばって勉強しています。

岩ヶ谷 実由

僕は、会社ではたらくていてと思っています。

大石 真矢

僕は、建築家になるために必要な数学を勉強しています。

栗原 瑞喜

僕は医者になり、たくさんの命を救うために、夜あそくまで医学を学んでいます。

宮下 陽一

私は通訳になるために大学で英語や中国語を勉強をしています。

山田 希華

私はパティシエールになって食べ物や作り方を研究していると思います。

岩科 すす

僕はとてもうまい！と言われる野球選手になっていると思います。

大石 龍

僕は、サッカー選手になって毎日ドリブルやDFの練習をしています。

櫻井 皓基

僕は弁護士になるために大学で日本の法律を勉強していると思います。

村松 勘太

ぼくは、生物専門の大学に入り、生物の生態の研究をしています。

山本 律希

私は国語の先生になるため、大学で採用試験の勉強をしています。

岩田 悠希帆

僕はプロ野球選手となり、投げこみの練習をして、活躍していると思います。

大村 直輝

私は、バレーボールを続けながら幼稚園の先生になるために勉強をしています。

遠矢 雅

私は保育士になるために、大学で人を楽ませる努力をしています。

望月 七虹花

私は薬剤師になるため大学の薬学部で薬学を学んでいます。

渡邊 美佑

貸出ランキング

【学年・男女別】※内田司書調べ



- 低学年(1・2年生) 男子**
- 1 かいけつゾロリ
 - 2 キャベたまたんてい
 - 3 平成うわさの怪談
- 低学年(1・2年生) 女子**
- 1 しずくちゃん
 - 2 いたずらまじよ子
 - 3 わかったさん・こまったさん

司書のオススメ 『エルマーのぼうけん』
絵本から童話への移行期である低学年の子どもたちが、本のおもしろさを感じつつ、ワクワクしながら冒険心の扉を開く一冊です。

- 中学年(3・4年生) 男子**
- 1 よくわかるひみつ
 - 2 あなたも名探偵
 - 3 怪談レストラン
- 中学年(3・4年生) 女子**
- 1 ルルとララ
 - 2 なんでも魔女商会
 - 3 ディズニー・ジブリ小説

司書のオススメ 『ドリトル先生物語』
世界中の子供たちに愛される名作。夢と希望・喜びがぎゅぎゅ詰まっています。想像力をグングン膨らませて読んでほしい一冊です。

- 高学年(5・6年生) 男子**
- 1 日本・世界の子供伝記
 - 2 恐怖!!都市伝説
 - 3 ハリー・ポッター
- 高学年(5・6年生) 女子**
- 1 黒魔女さんが通る
 - 2 レインボー・マジック
 - 3 泣いちゃいそうだよ

司書のオススメ 『感動ストーリーズ』全10巻
身近な「偉人」たちの力強く生きる姿を通し、子どもたちにエールを送り、生きる力を与えてくれる50人の実話集。様々な人々の生き方を知り、視野を広げることのできる一冊です。



学校司書・内田由美子先生の読書のすすめ

子どもの頃に読書をする事の大切さから、保護者向けの子育てに役立つおすすめの本まで、内田先生に聞きました。

Q 読書とはどんなものだと思いますか?

A 読書することで、**様々な世界を知**ることができて、知らなかったことが分かります。そして、**想像力を膨らませ**ることができるので、テレビなどの映像では味わえないものがあります。読書をする時間は、**心を豊かにしてくれる時間**と言えるのではないのでしょうか。

Q 保護者におすすめの本を教えてください

A 『**子供が育つ魔法の言葉**』という、世界中の親が共感し、愛読された大ベストセラー本です。日本でも、皇太子殿下が『子は親の鏡』の詩を朗読され話題となりました。作者が保護者の子育ての悩みに耳を傾けた、様々な温かいアドバイスや子育ての知恵がいっぱいです。常に傍において、**お子様の成長と共に読み深めていただきたい一冊**です。



活字離れや読解力の低下などが叫ばれる昨今…保護者のみなさんも、子どもの頃に比べたら「本を読む」機会や時間が、減ってはいませんか?そこで今回は、大谷小学校で取り組んでいる子どもたちの『読書活動』について調べてみました。



朝読書とは?

【毎週水曜日 8:15~8:30】

子どもたちが本を好きになるキッカケになれば…という思いで始められた「朝読書」。わずかな時間の中にも、先生方の様々な工夫や図書委員たちの懸命な取り組みが、たくさんありました。

授業とリンクした並行読書

例えば、国語の授業で宮沢賢治の勉強をしている時は、宮沢賢治に関連する本を先生が用意するなど、授業の理解を深める時間としても活用しています。

読み聞かせで本に親しむ

本を読むことは苦手な子どもでも、紙芝居や読み聞かせはみんな好きようです。高学年でも、クラスの図書委員にお願いして読み聞かせをし、日本の昔話の紙芝居で勉強することもあるとのことでした。



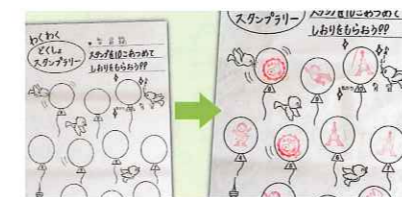
読書に興味を持つ環境作り

今は読書が苦手な子どもでも、本を好きになる運命の一冊に出会えるように、教室内の子どもたちの手が届く所に、おすすめの本を置いているそうです。

6月

読書月間とは?

図書委員の子どもたちが主体となり、年に2回設けられている「読書月間」。たくさん本を読んでもらうために、ゲーム性やとてもユーモア溢れるアイディアで、盛り上げてくれています。



「図書室にたくさん来て欲しい」という思いから、スタンプラリーを企画。本を借りたらスタンプを押し、スタンプを10個集めた人には、オリジナルしおりをプレゼントしました。

「より多くの本を読んでもらいたい」という思いから、読書パズルを企画。

11月

クラスで協力しながら完成させるこのパズルは、全部で35ピース。1ピースは10マスに分けられていて、1マスを塗るためには、1~3年生は本を1冊、4~6年生は100ページを読む必要があります。パズルの完成を目指した読書が、クラスに一体感をもたらしました。





お飾り作り

学年委員が企画・運営をして、大谷社会福祉協議会のご指導の下、お正月のお飾り作り。材料のユズリハと橙は、地域の増田さんが寄付して下さいました。



▲地域の増田さん



餅つき



▲餅つきに使うもち米は、米作りでもお世話になった高津さんが、丹精込めて作ったものを使わせていただきました。

豚汁にいそべ餅、みたらし餅、きな粉餅、苺大福。毎年大人気の炊き出しは、もちろん全て手作りです。いちごは『いちご園三軒屋』の佐藤さんの所で採れた「紅ほっぺ」。

炊き出し



▲『いちご園三軒屋』の佐藤さん

品種は中まで赤く、甘みと酸味のバランスが良い「紅ほっぺ」。まだいちごの生産量に限りがあるため、サイズや量をそろえるのに苦労します。



PTA専門委員

企画から運営まで、企画委員が大奮闘!!そして、各PTA専門委員と支部長がナイスアシスト!!みなさん、ありがとうございました!!



「すべては子どもたちのために」子どもたちの笑顔にホッとしました。ご協力いただいた地域の方、会員のみなさんありがとうございました。

PTA会長の望月さん▶



米作り



5年生は地域の農家さんのご指導の下、田植えに始まり稲刈り、そして脱穀まで、約半年間に渡る米作りを体験しました。



◀お米の名前は「にこまる」と命名されました。



子どもたちに、少しでもこの体験が記憶に残ってくれたらという思いと、この中から農業に携わる子が一人でも出てくれたらという願いを込めて、続けています。

◀地元農家の高津さん

稲刈り・脱穀した後は、藁すきをし、藁束にして保管します。この作業はいつも、学年委員の方々が行って下さっています。



会場準備



▲かまどで使う薪は、地域の深澤さんが寄付して下さいました。

体育館では餅つきなどの準備が、そして校庭ではかまどが作られ、『大谷昔まつり』の会場作りは着々と進みます。ここでは父親委員が大活躍です。



大谷昔まつりができるまで

毎年年末に、みなさんに楽しんでいただいている『大谷昔まつり』。PTAや地域の方々の協力、そして大谷社会福祉協議会の方々の強力なサポートがあってこそ成り立つこのイベントは、どのようにして作られているのでしょうか?ちょっと覗いてみましょう。

子どもたちを見守る 地域のあたたかなまなざし

地域には「子ども110番の家」という形で

子どもたちの安全を見守って下さっている方々がいらっしゃいます。

子どもたちが安心して生活できる地域作りに必要とされるモノとは…?

『ドルチェ カユカワさん』と『リル美容院さん』に伺いました。



Chapter 1

リル美容院さん
1日1回は
家族と会話を



私

は以前、学校の帰りに誘拐されそうになったことがあります。「子ども110番の家」を引き受けようと思ったのは、こうした自身の怖い体験があったからです。また、お店のある場所は、交通量が増えている交差点である上に、風が強く吹き付ける所なので、登下校中の子どもたちが危なくないか、様子を見てしまうことがあります。これまでに、お店に助けを求めて来た子はいませんが、土砂降りの日に雨宿りをさせてあげたことが一度ありました。数年後、その子が大きくなってお客さんとしてカットに来てくれた時に、「昔雨宿りをさせてもらいました」と言ってくれた時の感動は、今でも鮮明に覚えています。子どもたちが安心して生活できる学区にするためには、家族との会話が必要不可欠だと思います。1日1回でも、会話する機会を持つてほしいですね。家庭と学校、そして地域が一体となって協力し、



お店に助けを求めて来た子はいませんが、土砂降りの日に雨宿りをさせてあげたことが一度ありました。数年後、その子が大きくなってお客さんとしてカットに来てくれた時に、「昔雨宿りをさせてもらいました」と言ってくれた時の感動は、今でも鮮明に覚えています。子どもたちが安心して生活できる学区にするためには、家族との会話が必要不可欠だと思います。1日1回でも、会話する機会を持つてほしいですね。家庭と学校、そして地域が一体となって協力し、

Chapter 2

ドルチェ カユカワさん
地域や学校との
密な情報交換



子

どもは玉、地域みんなで協力して子どもたちを守ることは当然だと思います。だから、自分もできることをしたいと思い「子ども110番の家」を引き受けました。子どもを見掛けたら声を掛けますが、仕事中でも子どもが一人で登下校している姿を見かけると、心配でその後ろ姿をずっと見守ってしまいます。子どもが安心して生活できる地域を作るために大切なのは、連携、特に情報交換だと思っています。大谷の夏祭りなどのイベントを通し、地域の方とコミュニケーションをとることができます。学校の施設を利用することで、「こんな設備がある」といいのでは」と学校に提案することもでき、よりよい環境作りのお手伝いができると思います。



◆ 編集後記

取材や編集作業を通して、子どもたちのよりよい活動のために、先生、保護者、企画委員会を始めとする各PTA専門委員会、地域の方々など、多くの皆様のご厚意やご尽力があることを改めて実感することができました。この温かな環境の中で子育てができることに、感謝の気持ちでいっぱい입니다。本当にありがとうございます。そして、前向きで協力的な広報委員の皆様と一緒に広報誌を作り上げることができたのもとてもうれしいです。先生方や取材に協力してくださった方々、デザイナーの佐野立樹様や写真提供してくださったデン写真工房様、元広報委員長平松由美子様のご協力に深く感謝いたします。1年間ありがとうございました。

◆ 広報委員

- 1年 宮さおり
- 石田 智佳代
- 2年 山崎 艶子(委員長)
- 井上 朝美(副委員長)
- 3年 園浦 茜
- 大石 真理子
- 4年 藤城 幸恵
- 齊藤 知恵
- 5年 杉山 知加子
- 谷口 夏子(会計)
- 6年 井上 修子
- 新田 修子